

じゅしゅう



十月十七日(土) 十四時・

十九時の二座にわたって、秋の法要である「永代経法要」をおつとめ致しました。

感染防止対策として、消毒・検温・問診をした上で本堂へ入っていただきました。また、三密を避けるため、堂内の座席数も通常の半分とし、境内にもテントとイスを配置して対応することになりました。



さて、当日は朝から雨が降り続き、肌寒い一日となりましたが、境内から参拝して下さる方や換気のために扉が閉められず、寒い思いをさせてしまいました。

けれど、朗々としたおつとめと、熱のこもったご法話があり、心は温かくなられたかと思えます。

この度のご講師は、奈良県生駒市より藤本文隆先生



第19号
(通算359号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

です。初めて当山にご出講いただきました。ご讃題は親鸞聖人の浄土和讃より「十方微塵世界の、念仏の衆生をみそなはし、摂取してすてざれば、阿弥陀となづけたてまつる」。現代語訳としては「十方に塵の数ほどもある無数の世界に住む、念仏の衆生をことごとくご覧になって、大慈大悲の光明の中に摂め取って決して見捨てたまうことがない。それゆえ阿弥陀仏と名づけたてまつるのである。」

わざわざレジメをお持ちいただき、なじみのない仏教用語には解説を加えていただきました。耳で聞いて目で確認ができる、とてもわかりやすかったです。話しの中には「摂取不捨」という阿弥陀さまのお心です。阿弥陀さまは私のこと



今月のクイズ

・浄覚寺(浄土真宗)のご本尊は阿弥陀如来のお木像です。少しだけ前に傾いているのですが、それはなぜでしょうか?

・正解は次号にて。

一々の光明は

あまねく

十方世界を照らし

念仏の衆生を

摂取して

捨てたまはず

《仏説観無量寿經》



